地域医療構想の策定に関連した将来の救急医療のあるべき姿に関する主な意見

資料８

東京都地域医療構想における「東京の将来の医療～グランドデザイン～」

誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」

４つの基本目標

Ⅰ　高度医療・先進的な医療提供体制の将来にわたる進展
～大学病院等が集積する東京の「強み」を生かした、医療水準のさらなる向上～

Ⅱ　東京の特性を生かした切れ目のない医療連携システムの構築
～高度急性期から在宅療養に至るまで、東京の医療資源を最大限活用した医療連携の推進～

Ⅲ　地域包括ケアシステムにおける治し、支える医療の充実
～誰もが住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域全体で治し、支える「地域完結型」医療の確立～

Ⅳ　安心して暮らせる東京を築く人材の確保・育成
～医療水準の高度化に資する人材や高齢社会を支える人材が活躍する社会の実現～

前回の主な意見（平成27年度第１回救急医療対策協議会）

○　高齢化により単一臓器単一疾患から多臓器多疾患へ疾病構造が変化していくことを踏まえ、**救急医療体制の根幹である二次救急医療機関を強化**することが重要である。

○　救命救急センターやＥＲ型の救急医療機関については、地域の二次救急医療機関が**難しいと思う事案も一旦受け止め**、医学的な観点から見て**安心感が得られた後**に、地域の二次救急医療機関に**対応をお願いする**など、**地域のハブとしての機能**を担うことも重要である。

○　二次救急医療機関では、高齢者の救急患者について**地域包括ケアと絡めながら退院調整を行っていくことに非常に手間**がかかっている。また、地域の中で**介護施設との連携**も重要で、これまでの**救急医療の入口問題に加えて出口問題**についても議論していく必要がある。

○　高齢者については、**日常的な生活圏**の中で**水平連携に準じた垂直連携**により救急医療を提供していく必要がある。

○　地域包括ケアを推進していくには、**情報の共有**や**搬送手段の確保**が必要である。